

おれんじニュース

No311

2016年2月号



2016年1月8日、七高山の登り始めは金比羅山から出発した。生憎の雨だったが、歩くのに支障は無い程度。枯れ草と鳥居の中に納まったメンバーの雨具の色が美しい。

今月号の記事	県連の行事案内（冬山、アルパインクライミング）・水曜登山の案内・セルフレスキュー・あたらしい仲間・諫早街道歩き・裏英彦山・金立山・七高山前半・七高山後半、三倉岳、羅漢山
--------	--------------------------------------------------------------------------------------

	2016年2月	2016年3月	時間	場所
運営委員会	9日(火)	8日(火)	13:30~15:30	西諫早公民館
全体集会	24日(水)	23日(水)	19:00~21:00	

金立山登山は丸山古墳から



☛金立 SA から歩いて行ける丸山古墳



☛お正月の飾り付けをしている正現神社



お正月の御館山風景です。
あいにくの霧で初日の出は
拝めませんでした。が、御酒と
御馳走は沢山。乾杯！



お正月風景



IN 御館山



2016 / 2 月の山行



	山行部	自然保護部	ひまわり山行部	技術研修部
月/日(曜)	2/6(土)	2/21(日)	2/26(金)	2/28(日)
山名(行事)	基山～天拝山	黒髪山&藤の尾 梅園	小江～小長井	釈迦ヶ岳 御前岳
地 図	二日市・不入道	有田・蔵宿	諫早・湯江・肥前大浦	十籠・豊後大野
集 合 場 所	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早駅 8:00 西諫早駅 8:10	JR 諫早駅 7:54	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30
難 易 度	体力 2 技術 1	体力 1 技術 2	体力 1 技術 1	体力 1 技術 1
帰 着 時 間	18:00	18:00	16:30	17:00
歩 行 時 間	4 h	3.0h	5.5h	3.5h
交 通 手 段	マイクロバス	マイクロバス	JR&県営バス	マイクロバス
宿 泊 施 設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉	なし	無し	無し	?
参 加 費	4000 円	3000 円	交通費のみ	5,000 円
申 込 期 限	1/31	2/21	2/24	2/25
集 約	高森	山口	林孝子	山下文代
備 考	今年、背振山系を通して歩いて見たいと思います。手始めに基山～天拝山を目指します。時間があれば九州国立博物館で「黄金のアフガニスタン展」を見ましょう	乳待坊から黒髪山の岩峰を眺めながら登り住吉城跡へ1周します。藤の尾梅園は6500本で多分見頃です。	12月の続きを歩きます。小長井からはJRで帰る事も出来ます。牡蠣の美味しい季節ですね。	福岡県、大分県の境に位置している津江山は稜線歩きも快適です。霧氷が見られたらラッキーですね。
感想文提出	2/16	3/1	3/6	3/8

県連行事案内……(参加申込 事務局 鎗水まで)

雪山登山：恐羅漢山(広島県) 2016年2月13～14日
 比叡山岩登り(アルパインクライミング)： 2016年4月2日

技術研修部だより (参加の連絡・川原まで)

セルフレスキュー

1月30日(土) 9:30 西諫早駅 レスキュー始めです。

水曜登山：水曜日に多良岳を中心に山に登っています。西諫早駅8:00出発です。

2016 /3 月の山行



部	山行部	ひまわり山行部	自然保護部	技術研修部
月/日(曜)	3/6(日)	3/25(金)	3月下旬ウィークデイ (桜の開花時期)	3/27(日)
山名(行事)	仰烏帽子	橋神社～とけん山	田布施川桜ウォーキング	羽金山
地 図	頭地	愛野・肥前小浜		雷山
集 合 場 所	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	県営バスターミナル 島鉄バス 8:20 発	諫早駅裏 8:00 西諫早駅 8:10	諫早駅 7:20 西諫早 7:30
難 易 度	体力1 技術2	体力1 技術1	体力1・技術1	体力1 技術1
帰着時間	20:00	16:00	17:00	18:30
歩行時間	3.5h	3h	5h	4h
交通手段	マイクロバス	公共交通機関	マイカーor マイクロバス	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	なし	無し	無し
温 泉	?	あり	無し	古湯
参 加 費	5,000 円	交通費のみ	3000 円	3500 円
申 込 期 限		3/22		3/20
集 約	高森	林孝子	山口	山下文代
備 考	山肌一面にある残雪を解かし顔をのぞかせる黄金の福寿草を見に行きます。	ひまわり山行部が毎年恒例にしているお花見山行です。	佐賀労山の方も一緒に桜満開の並木道を歩きます。開花時期と晴天に合わせて実施するので乞うご期待。	ショウジョウバカマの大群落を見ながら歩きます。福岡県の名曝、白糸の滝から登ります。頂上は西日本西部の電波塔がある所。整備された敷地内にも入れてもらえる。
感想文提出	3/16	4/5	4/5	4/7

あたらしいなかま



乾 利博さん 1月より入会。市内在住です。
 近隣や県外の山々の四季折々の景色といろいろな登山ルートを楽しみたい。最近九州圏外の山にも足を延ばしております。
 夏山登山ばかりです。



2015年12月/2016年1月

12月11日(金)

諫早街道歩き (ひまわり山行部)

(参加者) 福岡、中須賀、佐藤、山口、吉川、兵庫

(6名)

(行程) 9:00 諫早神社 9:15～四面宮飛び石～慶巖寺～安勝寺～一里塚～千人塚～妙本寺
～11:45 大歳神社(昼食)12:15～一里塚(三本松)～茶屋跡～ちちやのん坂～
天初院～一里松跡～15:05 小江駅前 15:16-(バス)-15:35 諫早駅前

(感想) 諫早永昌宿から小江、湯江を通り山茶花高原を越えて佐賀塩田宿まで12里の道を多良海道と云い、彼杵、大村を経由する長崎街道の脇往還として知られている。そのうち諫早神社から湯江までの道は諫早街道とも名付けられている。

福岡黒田藩と佐賀鍋島藩は江戸幕府より長崎港の警備を命ぜられ上下するが、佐賀藩は長崎街道の大村藩を通らず自国領のみで行ける諫早街道を使用したので、道もだんだんよくなったという。今日はこの道を諫早神社から小江、できれば湯江まで歩くつもりだ。

心配された雨もやみ曇天ではあるが街道歩きには適した天候となった。諫早神社には6人が集まった。健脚とまではいかないかもしれないが、そこそこの速さと持久力のあるメンバーだ。出発に先立って、諫早神社(以前は四面宮と呼ばれていた)境内参道の敷石は諫早大水害前の本明川飛び石が置かれていることや、本明川は小さな川なのに何故一級河川になっているのかなど、下調べして仕入れた知識をひとくさり述べていざ出発。



まず神社前の本明川飛び石を渡る。昨日の雨で少し水量が増えているので用心して渡る。慶巖寺は浄土宗のお寺で、総ケヤキ造りの山門、八橋検校(六段の曲作曲)の碑、芭蕉の句(雲おりおり人を休むる月見かな)を刻んだ翁塚や諫江八十八カ所第15番札所の弘法大師像、磨崖三十三観音等見るべきものが多い。ただ諫早でも大事にされている弘法大師像が祠も御堂もない外に置かれているのはチョット残念。やはり宗派の関係だろうか?

安勝寺は時鐘として有名である。享保5年(1720)領民の要望で時鐘が始まり、昭和19年戦争末期まで220年間1日も休まず続いたそうである。鐘楼のそばのイチョウの黄葉とモミジの紅葉が相俟ってなんとも素晴らしい!! 今が一番の見頃か!

江戸時代諫早街へ入る唯一の道は、安勝寺下手で本明川にかかる普通の石橋であった。文化7年の洪水で流失後30年は仮橋であったが、巡検使下降を機に天保年間に1年半をかけて、長崎の眼鏡橋を手本に今の眼鏡橋を作ったという。諫早大水害時佐藤さんは、行

方不明者の捜索にあたったことや、水死者が安勝寺や慶巖寺の小高いところで茶毘に付されたことなどを語ってくれた。当時の悲惨さが目に浮かぶようである。合掌。

下見をするために作成したコース地図をもとに、地図の勉強をかねて吉川さんに先頭を歩いてもらう。要所要所に諫早史談会作成の標石もあり、確認しながら進む。

長田の大歳神社で昼食を取る。ここは駕籠立場で昔は眼下に有明海、目の前に雲仙岳、遠くは熊本まで見えていたらしい。今は家が建って見晴らしは良くない。境内には諫江八十八カ所第 23 番札所があり、社殿の左の御堂に大師像が祀られている。地元の人が弘法



大師を敬い大事にしているのが嬉しい。社殿の裏には男根型の道祖神(さやんごぜ)が設置されている。陶器製の立派なもので元気と若さをあやかりたいものである。

大歳神社を下ると東長田の一里塚だ。昔は 2 坪近くの石垣の上に標識の松を植え目印にしたという。ここには三本の松が植えられていたそうで今も石垣の一部が残っている。ここから初めて土の道となり坂道を上るが、今は利用されていないため荒れて雑草が生い茂り歩きにくい。一度車道を横切りまた山道に入り下り坂となるが、今度は枯れ木や小さな倒木が歩行を妨げる。しかし土の山道は昔の旅人の気持ちを僅かでも味わえる。

猿崎町の高台にも駕籠立場がある。ここは眼前が開けているため、大歳神社の駕籠立場では見られなかった眺望を殿様になった気持ちで十分に堪能する。この先がちぢのん坂で、道は途中で畑と藪になって途切れている。下見時にはその先の道を見つけることができず大きく迂回した所だ。今日は皆でチャレンジしてみよう。私が左方向、中須賀さんが右方向と二手に分かれて藪こぎしながら探索する。中須賀さんが藪の先に道らしきものを見つける。藪の先でつながる林の中の道は時代劇の映画にでてきそうな、なかなか風情のあるものだった。これで完全に地図どおりに完歩できる。本日一番の収穫であり喜びである。

湯江宿迄行くつもりであったが、街道筋の歴史や故事や伝説などにふれていると、そう簡単には進まない。小江で帰りのバスの時間になった。今回はここまでにしよう。この続きはまたの機会にということで、一日楽しく歩くことができました。

(兵庫 記)

12月15日(火)

裏英彦山(山行部)

(参加者)中須賀、鎗水、福岡、高森、林(和)、田中(静)、松岡、工藤、下釜、小熊、高田、大久保、松田、中野、山下(ち)、一般(乾さん) (16名)

(行程)諫早駅裏 6:20—西諫早駅 6:30—金立—把木 IC—裏英彦山登山口 9:40—薬師峠 9:55—ケルンの谷 11:20—籠水峠 12:25—鬼杉 13:25—鬼杉登山口 13:55—英彦山大権現 14:40—原鶴温

泉 15:30~16:10—把木 IC—西諫早 18:30

(感想)12月15日(火) 5時、暗闇の中、天候が気になり外へ出ると生憎の小雨。

小雨で山行が中止になる事はなく約束の時間に間に合うよう自宅出発。

初めて歩くコースでもあり期待と雨の影響で道が滑りやすくなっている不安が交差する中、大村 IC 高速バス停でマイクロバスの到着を待つ。



マイクロバスはほぼ時間通り、私を最後に乗せた後は途中の休憩を挟み一路目的地へ向かい登山口へ。登山口では朝からの天候が変わらないため雨衣を着るか、雨衣を着れば暑くなるし・・・と、迷うような空模様。暑くなるのを覚悟し、また途中雨が降り出すと雨衣のズボンを書くのが面倒なためズボンのみ着用するずぼらな性格。

服装を整えた後は準備運動、その後地図・コンパスにより我々が進む進行方向をしっかりとコンパスに記憶させいざ出発、ここではコンパスの扱い方を忘れてしまっても同じ仲間同士相互に伝授する。このチームワークが後々コースを迷った時に大いに助かる結果となった。濃霧の中を歩く時には思わぬ方向に進まない為にも大事な約束事でもあり感心する次第であった。



コース上には大きな倒木あり、湿気で苔むした多くの岩等、立派な庭園の中にある様な錯覚を覚える場所が多くあり神秘的で幻想的な雰囲気感動することたびたび。

ただ感動を与えてくれる苔むした岩も歩く者にとっては大変厄介で、ソロリソロリと岩の上に足を置き慎重な歩行であった。

今回の山行は玉屋神社をゴール地点としていたが、残念な事に天候は回復せず鬼杉からエスケープルートを取り鬼杉登山口へと下山しゴールとしたが登山口に着くまでの時間を含めコースタイムも殆ど計画通りであり感心してしまった。

下山後は温泉で汗を流し、自分にとって下山後には欠かすことが出来ないアルコールを求め、マイクロバスの中では適度な疲れもあり気持ちいい帰路であった。

(小熊 記・文中の写真も)

12月20日(日)

金立山(技術研修部)

(参加者) 高森、川原、山下(ち)、高田、鎗水、林(和)、福岡、中野、中須賀、佐原、山下(文)、
松岡、工藤、中里、森(寿)、小熊、山口、大久保、田中(静)、田村、國分 (21名)
佐賀労山：直塚さん、今泉さん、真崎さん、江口さん(見送りのみ)、 3名

(行程) 諫早駅裏 7:20～西諫早駅 7:30～大村 IC(小熊氏)～金立 SA 8:30/8:55～丸山遺跡
9:05～正現社 9:50～展望台 10:20～正現岳 10:30—切り通し—(正現ルート)—金立神社
上宮 11:15—奥の院・金立山頂上(昼食)11:25/12:15—(観音沢ルート)—吹上観音 12:40—
桧沢ルート—教育キャンプ場 13:45—葉隠の碑—徐福長寿館 14:25—SA(マイクロバス)—東背振
IC—山茶花の湯 15:45/16:35—東背振IC—西諫早
17:25

(感想) いつも長崎自動車道を走りながら車の窓越しに眺めていた山。

中腹に赤い神社(正現稲荷神社)、山頂(正現岳)はそれほど高くはないとみていたが、その奥は分らない。金立水曜登山会と言う誰でも自由に参加できる会があり、ずいぶん参加者が多く、また多くのコースが開かれていると、以前いただいたコース図にあった。

佐賀平野には古代から近代までの遺跡が多く、全国的には吉野ヶ里遺跡が有名である。金立 PA から続く金立山にも多くの古墳群があり、中国秦代に不老不死の薬草を求めて上陸した徐福の伝説が多い。個人的には政治亡命して金立ラーメンを伝えたのではないかと思うのだが(?)。

それはさておき、佐賀の皆さんに案内いただき丸山古墳群を見学して登山開始。

長崎自動車道から見える正現稲荷神社、正現岳まではそれ程の行程でもない。正現神社から見る佐賀平野の見晴らしは素晴らしい。有明海の向こうに雲仙岳がそびえる。

さて正現神社の石段は何段だったのでしょうか？

正現岳から先は少し距離が長いが、登山道は切通しなどもあり縦横に整備され、分り易い標識がついている。なだらかな山間に小さな沢があるのも不思議な感じがする。1時間弱で金立神社上宮。背後のお宝石はどうしたら登れるかなどと考えつつ歩いていると、まもなく奥之院(金立山頂上)に到着。昼食後下山にかかるが、縦横に分岐があるゆえにどこをどう歩いているのかこんがらがってしまう。

中腹の吹上観音(観音菩薩の磨崖仏)に案内していただいた、良く精緻に磨き上げたものだと感心して見上げた。桧沢は良く間伐され明るく、すがすがしい。やがて奥の細道を通り、乱斗山麓に点在する教育キャンプ村、紅葉の森、葉隠発祥の地(常朝先生口述筆記)、乱斗古墳、薬用植物園、徐福長寿館と巡り歩いた。

麓には古代から近世までの歴史的遺物や碑、展示館などあり、ゆっくりハイキングするには十分楽しめる所であった。四季折々に山の表情も違うであろうから、また出かけてコ



ース毎に確認してみたい。歴史に興味のる筆者には登山と史跡を一度に楽しめ、誠にありがたい企画であった。佐賀の皆さんお世話になりました。

(※正現神社の石段は31段?) (鎗水 記)

2016年1月8日(金)

七高山前半(立山公園～妙相寺)(山行部)

(参加者) 山下ち、田中静、山下文、柿森、林和、高田、乾、松岡、中須賀、佐原、山口、白石、鎗水 (計13)

(行程) JR諫早駅7:15～JR西諫早駅7:19～JR長崎駅7:49/長崎駅前東口8:02～立山公園口8:25～金比羅山9:30/9:40～室生寺10:10～片淵近隣公園運動広場10:35/10:55～七面山妙光寺11:10/11:20～烽火山12:00/12:40～秋葉大権現13:00～岩戸大明神13:15～妙相寺13:25

(感想) 雨を心配しながらトイレへ。ウ～ン出ない、ウ～ン出そうで出ない……、このままではキャンセルか? もう一度力強くウ～ン…… 出た! すっきりした。

いきなり、ふんづまった書き出しで失礼。

長崎の登山開始は七高山からと言う事で今年も計画したが、天候が悪く立山公園口から歩き始める。小雨は金比羅山の手前で上がり、樹林帯の中の登山道まで濡れるほどではなかったようである。寒さも大したことはないが空気は冷たい。金比羅山を越え室生寺に下りるが、途中の竹林では翁が竹の子を掘っていた。素人ではどこに



金比羅山



七面山妙光寺

あるのか分らないが、立派な初物が収穫されていた。

西山高部水源池を渡り片淵近隣公園運動広場に上がり、そこから健山の裾を回って七面山妙光寺に至る。これから先が急登で本格的な登山になる。ロープを伝い岩を登り烽火山に予定通り12:00着。やはり途中でウ～ンと唸ってしまった。でもこれはSさんの驚異的な強さと粘りに舌を巻いたからである。烽火山で昼食を摂り、かなり急坂を秋葉

大権現経由妙相寺に下る。本日はここで解散。諏訪神社を省略した分早く下山できた。

事前に片淵近隣公園運動広場から、七面山妙光寺、烽火山までの登山道を下見していたのは良かった。 (鎗水 記)

2016年1月9日(土)

七高山後半(英彦山～若宮稻荷神社)(山行部)

(参加者) 高森、林和、鎗水、工藤、高田、松岡、山下ち、松田、中須賀、白石、吉川 (計11)

(行程) JR諫早駅7:15～JR西諫早駅7:19～JR長崎駅7:49/長崎駅前東口8:27～番所8:43
～英彦山登山口8:50～岩倉大明神9:05/9:15～虚空蔵堂9:25/9:30
～豊前坊(豊前坊周回)9:40/10:20～英彦山10:45～展望台11:00/11:25
～八幡大明神11:50～愛宕山12:15/12:20～風頭山12:50～若宮神社13:00

(感想)

二日目、番所バス停近くの鳥居をくぐると英彦山登山口があり、上を見上げると急な石段に一瞬(お～)びっくりぽん。でもワクワク気合が入る。本来ならストレッチ後出発する所が11名、狭き場所の為、早々に登り始めている方もいる。さ～まず石段を数えてみよう。50段～100段～明るい声、笑い声が聞こえていたのが徐々に聞こえなくなった。それもそうですね。手始めの登りだけでも250段、さすが長崎坂の町、石段の町に～びっくりぽん。

岩倉大明神で一息、地図学習、ストレッチ行う。素晴らしい大きな竹林を左手に登山道登りは気分がいい。(山肌は枯れ木等が目立ち心痛む。山遊びしていた幼少期は生き生きしていたな～と感じる)石段は続く。英彦山神社では明るい声、オレンジの仲間すご～いね。展望所(10:50)東部港町長崎を一望に見渡し感動し、のどかな太陽の日差しを感じながら胃袋も満たすと(11:25)出発。愛宕登山口までは一旦、風頭バス道まで下る。(11:25)ここでも民家の間の石段を登る。歩きに少々飽きてきたが、庭先のみかん(いよかん?)黄色い花(ヤマブキじゃあないし?)、ろうばいの花が咲き、目を楽しませてもらって元

気になれた。愛宕山12:15～風頭山(坂本龍馬像)～若宮神社に到着すると、皆、達成感と安堵の表情に映える。電車道まで下山の足取りは速い。参加皆様の感想。「長崎を象徴する坂の町に満喫しました。」「階段がきつかった～。」三人娘:「二日間に分け昨年より余裕あり良かった。」「二日間無事に登れて良かった」「二日間ゆっくり楽しみながらの七高山巡りが出



来たので良かった」「足が疲れた～(今晚はいたわってね)」「長崎の町の景色が最高だった」「う～ん・色々な角度から市内を見て昔懐かしい時期が思い浮かび良かった。」私、念願の七高山巡りが新年早々やっと叶った、雨女からも抜けられて満喫、満足の楽しい二日間でした。幹事さん皆さん有難うございました。今年の山行が楽しみで～す。JR出発までは時間がありお財布のひもが緩み、登山靴等々数点購入しすぎました。

(白石 記)

2016年1月16日～17日

三倉岳・羅漢山(技術研修部)

「三倉岳の部」 天候:晴れ後曇り

(参加者) 松岡、川原、山下ち、吉川、佐原、山下ふ、福岡、高森、中須賀
下釜、松田、工藤、田中し、小熊、松園(一般)計15名

(行程)

- * 7:50 J R 西駅発—大村—9:00 金立—10:05 下関—12:05 大竹—12:45 三倉岳登山口
- * 13:00 登山口発—13:20 コース分岐—13:30 岩場—13:50 上・中岳分岐—14:00 上ノ岳＝朝日岳—14:25 中ノ岳—15:00 下ノ岳＝夕陽岳—15:20△三倉岳—15:30 下山開始—16:10 四合目小屋—16:25 翁岩—16:40 A コース登山口着
- * 17:30 民宿どんぐりの山着—入浴—18:40 夕食—23:00 就寝

(感想)

三倉岳の登山口駐車場には 12 時 45 分ころに着いた。ここの北側の目の前に白い花こう岩の三本の槍を突き立てたようなみごとな山容の三倉岳がそびえていた。登山書に言うようにやはり「三本槍岳」のほうが山名として良かろうと思った。

この山容は宮崎の鉾岳 (1277m : 一つの鉾様) や大崩山 1600m の湧塚の三本の岩峰を縮小したような感じである。しかし、200—300m くらいしか離れていない眼前の標高 700m のこの三連峰はやはり大崩山、鉾岳にまけず劣らず見事だ。

ややゆるい坂の登山道、A・B のコース分岐、胴乱岩をすぎて登路が急になりはじめかつ階段状の石段となった。花こう岩壁の岩に手を加えたものであり石を並べたものではない。段差も 30—50cm はあろうか、3 段では 1m を超えそうな石段であった。石質は凝灰岩ような足がかりのよい滑りにくい階段道だ。

いよいよきつくなってきたころ左方の岩壁に 2?3 人がぶら下がっている。女性も混じった岩登りクラブの訓練のよう、そばには同行の柴犬も主人を見守っていた。

ついで 20 分程で上・中岳の分岐、ここから 7 分で朝日岳の頂上、丸いザラザラした石質の岩上に登りやや恐怖をこらえて記念撮影してもらった。見晴らしはいまいちだった。ここを降りて分岐から中ノ岳を目指し、上・中岳の両岩峰の狭い岩・木の根をつかんで進み天狗の舞の舞台を過ぎ 20 分で中ノ岳についた。これまた広い 10m 四方はあろう? 2 枚の岩のテーブル状の岩塊の舞台だった。ここからの眺望は四方八方、下界を十分に見渡せた。滑りにくい岩とはいえ立って歩き回る気はしなかった。

ここから降りがけに 4—5 人の子供連れの外人家族と出会った。親父と覚える体格の良い男性が登り始めたが子供・女性は危険と判断? 家族はゆっくり降りていった。

分岐にもどりさらに長い 2 か所の鎖場を経て下ノ岳＝夕陽岳に達した。ここの頂上に三角点と見まごう小塔があった。ここに登り転落か何か事故に遭遇した製紙会社の人の慰霊碑だった。この山の三角点はここから 20 分の見晴らしのない地点だった。

天候もすこし曇り気味となったので先を急ぎ A コース経由、4 合目小屋、翁岩を経て 4 時半頃に全員無事下山完了。こんな岩峰の山もある・ロープワークの必要性を痛感した。

民宿どんぐりの山には 17 時半すぎに到着。汗も出て体は急に冷え、ふるえながら男湯の風呂の入湯待ち、カラスの行水、18 時半過ぎに夕食となった。大きな皿のトン肉のバーベキュー・生ビールでやっと今日の疲れをとり、5 人部屋にもどり軽い二次会で明日の英気を養った。2 日目の羅漢山登山にはいろいろなハプニングが出ておもしろかったが小生の担当頁はこれまで、以上。

(須賀山人 記)



2016,01,16 三倉岳

2008,09,27 鉾岳

2008,05,04 大崩山

1月17日(日) 曇り後雨

羅漢山

民宿出発 7:40~8:40 生山峠近辺 (車スリップ) 9:00 歩き始める~9:50

ハイランドロッジ (トイレ休憩) 10:00~11:00 小羅漢山~11:20 不知火杉~11:30 羅漢山頂
11:40~12:00 生山峠登山口~12:15 マイクロバス内で昼食 13:00~廿日市 I C~山陽・中国
道~諫早 I C~19:00 西諫早着

(感想)

気楽な山行・・・の予定だった。

羅漢山は山口県と広島県にまたがる、トロイデ形の女性的な穏やかな山である。

登山口がある羅漢高原は標高 800m で、1100m の羅漢山は遊歩道も整備され、小一時間で登れるファミリー登山には最適の山と紹介されている。

登山口へは北の広島県側から入ったが、急坂になった山の中腹辺りで、積雪のため車がスリップし、マイクロバスが車道を斜めに塞いでしまうという事態が生じた。

JAF も対応できないとのことで困ったが、幸い通りがかりの地元の男性の協力を得て、ひとまず安全な場所へ車を退避させた後、雪の車道歩きから登山が始まった。

羅漢高原まで行かなくても、生山峠から登れば 30 分くらいで羅漢山には登頂できるはず・・・登山口は近いと思っていたが、車道を登り切った峠と思いき寄りには案内板がなく、結局、当初計画通りの羅漢高原ハイランドロッジまで歩き下った。

思わぬロスタイムになったがまだ 10 時である。時間的には十分余裕がある。

気を取り直して登山開始。ところが・・・雪のためか、途中から登山ルートはずしてしまい、20 分近く右往左往して、やっとキャンプサイトの奥にある中国自然歩道に辿りついた。

正式ルートに入ると早い、順調に登って 11 時には小羅漢山に着いた。一旦分岐に戻り、山火事でも燃え残ったという不知火杉を経て、11 時 30 分に羅漢山頂に着いた。

山頂には変成岩を貫いて地表に突出した蛇紋岩があり、コンパスを近づけると針が振れると表示がある。其々に試してみると、微妙に振れ幅が違ったりして面白かった。

下山は、登山口が解らなかつた生山峠に、国土交通省設置の巨大な雨量計ドームの横から下ることにする。北側の下山道は、南側の登山道より 3 倍くらい雪が深い。

新雪を気持ちよく踏んで下ると、拍子抜けする程早く車道に出た。

往路に、登山道ではないかと考えた場所であったが、「電波塔への道路で行き止まりになっているので、関係者以外は入るな」との表示版があり、「生山峠」とも「中国自然歩道」



とも案内板がなかったため見過ごした場所であった。

15分くらい車道を下って、マイクロバスに残っていたメンバー2人と合流、暖かいバスの中でようやく昼食を摂った。昼食後、危険を避けるため雪がない所までバスを空で移動させ、そこから全員乗車することにして、再び雪道を200m程歩き下る。

すると・・・そこに「生山峠」の標識があるではないか・・・。

稜線上にあると思い込んでいた「生山峠」が実際はかなり下のほうにあったのである。

しかし・・・、山頂の中国自然歩道の表示板では「生山峠」は稜線上に示されていた。

「地図」と「標識」は必ずしも一致している訳ではないのだ。

スリップ事故、登山口の見誤り、ルート外し・・・“楽勝の山”と気楽に構えていた山で、思いもかけぬパンチを食らった気がした。

下調べはしていたが、私にとって今回は「読図」の甘さを痛感した山旅になった。

会を辞めた後でも暖かく迎えてくれるオレンジメンバーに感謝するとともに、パワー全開で企画から山行までを仕切ってくれたY女史にお礼を述べたい。

「あんたはすごいよ！！」

(記録：松園)

七高山 前半～後半



☛ 七面山にてしばし休憩

☛ 七面山に向かう竹林



☛ 妙相寺で解散。中国風山門

☛ 烽火山の周りで食事とりました。



☛ 豊前坊飯盛神社への階段

☛ 豊前坊の岩場の祠



広島・三倉岳に登りました！



ここまで登った佐原さんに皆、脱帽。お天気もいいね～！



こんな岩場を何度も登る。



怖いもの知らずの二人？



朝日岳に登って写真に納まる。命がけです。



1月18日御館山にダブルで虹がでた

おれんじニュース 311	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡 正 廣
編集責任者 及び 編集委員	山下ちず子 兵庫芳隆、中野美津子、林和子 山下文代、鎗水律夫
発行年月日	2016.1.27
財政担当	
郵便振替口座	01820-6-43775 オレンジハイキングクラブ
ホームページ	http://orangehikingclub.com

今年も暖冬で始まりましたが、此処に来て冬将軍到来と言う感じです。羅漢山では雪道を延々と歩きました。霧氷は見る事が出来ませんでした。もう少し冷えるとそれもニュースに掲載出来るかも知れませんね。感想文担当の人がスムーズに送ってくださったので今回14ページになりました。今後も宜しくお願いします。(山下ちず子)